

1年2組

 願いをもって、働きかけていく 朝顔との暮らし
～虹色をつくりたい 朝顔大作戦～


朝顔で虹色をつくりたいな

4月、図工や自然体験園の植物で色水づくりに取り組んできました。生活科ではどんな活動をしていきたいか話し合った際、「朝顔でもきれいな色水を作りたい」「ベランダを出たらびっくりするくらい大きな朝顔ランドをつくりたい」「いろいろな種類の朝顔を植えて虹をつくりたいな」「自分で種を選んでわたしの朝顔も育てたい」という願いがどんどん膨らんでスタートした朝顔との暮らし。かたい学級園の土を耕し、自分の植えたい朝顔の種を観察しました。また、種を植えるために必要な土や植え方について図書館にある朝顔の本で調べ「早く芽が出てほしい」と期待を胸に、種をまきました。種をまいてから4日後、ついに朝顔が芽を出しました。Aさんは登校すると「芽がでてるよ」という友達の言葉を聞いて、すぐに朝の支度を済ませ、学級園に飛び出していきました。そこには、確かに芽が2つ出ていました。Aさんは「芽がでてうれしい。もっとあさがおが大きくなってほしいな」と観察記録に綴りました。Bさんは、毎日iPadで写真を撮って「先生見てよ、種の殻を破って大きくなろうとしているよ」「昨日よりこんなに葉っぱが大きくなったよ」と朝顔の成長の速さを伝えてくれます。Cさんは「朝顔ってすげ～、早く朝顔ランドつくりたいよ」と笑顔で語っていました。ずっと待ち望んでいた朝顔との出会いやその成長に喜びを感じるとともに、この先の朝顔との歩みについて期待をもって想像している姿がありました。

あさがおらんどをつくるぞ 2025.5.10～



あさがおさんを うえたよ

 はやく あさがおの
あかちゃん(たね)を
ふわふわの ペットに
いれてあげたいな


あさがおさんの けんこうかんさつ 2025.5.27～



種をまいてから10日後、子どもたちと朝顔の健康観察をしているとき、こんな会話が私の耳に飛び込んできました。

Dさん:「あれ?これあさがおの芽だと思ったけど、はっぱの形がちがうよ」
Eさん:「あー、家の畑にも生えている雑草だよ、まずいよ、栄養吸い取っちゃうんだよ」
Fさん:「そうそう、あさがおの本にも雑草と虫はよくないって書いてあったよ」
みんな:「やばいよ、たくさん生えているよ、あさがおをたすけてあげないとかれちゃうよ」
Eさん:「葉っぱに虫がついている!まずいよ!」
Gさん:「うわあ～葉っぱの裏みてよ、虫がたくさんいるよ」
Hさん:「なんの虫なの?ここの葉っぱ食べられているじゃん」
Iさん:「それ、たぶんアブラムシだよ、葉まかないといけないう」
Jさん:「まずは、みんなで、手で取ろうよ」



あさがおさんの てんてき



活動していく中ですべて順調にうまくいくわけがありません。朝顔を見つめ、朝顔と関わり、朝顔を感じる中で「なんとかしないと」と自分の思いをもって、雑草を夢中になって取ったり、葉っぱについている虫を取り除こうとしたり、自分たちで行動する子どもの姿がありました。日々の観察から、課題を見出し、試行錯誤していく子どものたちの姿、朝顔に、より本気になっていく姿が見られました。

わたしの朝顔も元気になってほしい

6月下旬、学級園に植えた朝顔たちがだんだん成長していきました。Aさんは、朝学校に来ると、すぐ学級園に飛び出し、水やりと朝顔の観察をしています。「先生、つるがのびているよ」「はっぱがおおきくなっているよ」と笑顔で語りかけます。それと同時に、登校してきた周りの子どもたちから「つるが横に伸びちゃってるよ」「はやく支柱を立てないと」という声が聞こえてきました。そこで、一つは私が支柱とネットを張りました。もう一つは、子どもたちが力を合わせ

て張りました。「ぼくも作りたい」「先生がやるんじゃなくてみんなで作りたい」と、みんなで協力し合う姿が見られました。「わたし(たち)がつくりたい、できるところは、なんでもわたしたちがやる」という子どもの挑戦する姿と友だちと協力してつくり上げる姿にいつも感心します。支柱とネットを作ると朝顔のつるはぐんぐん上に成長していききました。Bさんは、「昨日、ここらへんだったのに、ここまで伸びているよ」「くるくる巻いている、おもしろい」とつるの成長の速さと巻き方について興味を抱いていました。Cさんは、「うわあ〜、僕の身長を超しちゃうよ、どこまでいくのかな」とニコニコしながら、朝顔の成長に喜びを感じ、誰かに伝えたくなくなっていました。観察していく中で、つるの特性に興味をもち、「どうしてなのかな」と問いがたくさん生まれ、図書館に調べに行こうとする子どもたちの姿が印象的でした。

朝顔の成長と共に、国語では、「つぼみ」の学習を進めていきました。すると、学級園の横にある雑草だらけの畑で、朝顔が咲き始めました。教科書によると朝顔のつぼみは、「ねじれたところがほどけて、だんだんとひろがっていきます」と書かれています。子どもたちは、「どこからねじれているの」「ねじれたところがほどけてっていうところがよくわからない」と疑問を語ります。Dさんは、「横の畑につぼみがあつたから見て確かめたい」と訴えます。そこでみんなで、教科書に書かれていることが本当なのか確かめに行きました。つぼみを探し、「やっぱりねじれている」と語る子どもたち。そして、Dさんは、「あさがおさんごめんね」と、咲き終え、萎んだ朝顔を摘み、「こう、ねじれたところがだんだんこんなかんじてほどけていったのかな」と実際に花が咲いていく様子を友と確かめていました。本物に触れ、自分の眼で記述されていたことを確かめていく。知識や情報を鵜呑みにするのではなく、実際に試すことで、その真偽や有効性を確認する能動的な学びの姿を目の当たりにしました。体験的な活動の意義を改めて子どもの姿から学びました。

朝顔トンネルや隣の畑では、朝顔が順調に育っている一方で、一人一人の朝顔に元気ありません。毎日水をあげ、適切に肥料をあげ、育てていますが、葉っぱが黄色くなってきてしまいました。Eさんは、「毎日、水もあげているのにどうして元気ないの」と不満そうな顔をして朝顔を見つめていました。「どうして畑の朝顔は元気なのに、わたしの朝顔は元気がないの」と心配そうに朝顔を見つめる子どもの姿がありました。わたしも心配になり、他の先生たちに相談をしました。「最近暑すぎるのが原因で、日陰においたほうがいい」とアドバイスをもらったことを子どもたちに共有しました。Fさんは、「やっぱり、熱中症なんだよ。僕たちだってこんな熱いところにいたら死んじゃうもん」と、自分の朝顔はもちろん、友だちの朝顔の鉢を持って、慌てて日陰に移しました。朝顔になって考え、行動するFさん。次の日、「ほら、すこし元気になってきたよ、やっぱ熱すぎたんだよ」とFさんは熱くわたしに語りかけてきました。Gさんは、「あさがおさん暑かったね、ごめんね」と謝る姿もありました。わたしの朝顔も元気に育ってほしいと願う子どもの姿に、朝顔がわたしたちのくらしの一部になり、大切な命として思いを巡らせていることを感じました。自分から行動していく子どもの眼差しはやっぱり違います。子どもたちは、目の前で起きている朝顔からの働き返しを受けて「育てる」ということに、のめりこんでいるように見えます。願いをもって朝顔と向き合い、7月下旬にようやく花が咲き始めました。これからどんな活動が展開されていくのか、子どもたちの問いや思いが溢れる朝顔とのくらしを大切な時間にしていきたいと思います。

